



さとやま 2019年 夏号 (通巻147号)

■発行 特定非営利活動法人うしく里山の会
〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
tel 029-873-8552 fax029-873-8552

■事務局 牛久自然観察の森内
tel 029-874-6600 fax029-874-6812
<http://ushiku-satoyama.org/>
■編集 木谷昌史

さとやま

特定非営利活動法人うしく里山の会 広報誌 No.147

1. 表紙 (アヤマ園株分け作業)
2. 牛久の外来植物
3. お知らせ
- 4~7 プロジェクト活動報告
8. 裏表紙 (ハナイカダの実)



写真1. キクイモの群生 (2014年10月8日 城中町埋立地) と塊茎 (枠内) (渡辺泰)

写真2. キクイモの塊茎

牛久の外来植物 10. キクイモ (菊芋) . . . 阿部 愛子

キクイモはキク科ヒマワリ属の多年草。8～10月菊に似た花を咲かせ、地下茎の一種である粹内写真のような芋状の塊茎(カイケイ)を作ることから、キクイモと呼ばれる。原産地は北アメリカ中部。日本では1859(安政6)年、江戸高輪で最初に記録された。当初、飼料用植物として入ってきたが、後に観賞用、戦後の食糧難時代には塊茎が代用食になった。それが畑から逸脱して現在、草地、荒地、土手などに野生化している。

茎の高さは1～3メートル、上部で分枝、剛毛がある。葉は大半が対生し、茎上部では互生、葉身は深緑色、図1のような卵状披針形、先は尖り、基部はくさび形で葉柄へ移行し、基部から1対の側脈が発達する。表面に突起状毛があり、裏面に腺点(ルーペで見られる分泌物を出す小さな点々)がある。花序は図2のような頭花で、径5～10cm、舌状花と筒状花からなり、そ

れらを取り巻く総苞片は披針形、長さ約1.5cm、平開または反曲し、全面に細毛や腺点がある。舌状花は黄色、8～20個、長さが3～5cmである。舌状花が10個以下で、塊茎が小さいものをイヌキクイモとする図鑑があるが、現在はキクイモに含める考えになっているという。

塊茎にはビタミンやミネラルおよび、デンプンの代わりに多糖類のイヌリンが多く含まれる。イヌリンは摂取しても体内で分解されにくく血糖値を上げないため、糖質や脂肪の吸収を妨げたり、腸内の善玉菌を増やすなどの健康効果がある、として最近注目されている。ネット情報によると福岡県T町では、「キクイモ王国」を目指し、粕漬、味噌漬、サプリメント、お茶、酒など商品の特産化を図っているという。

しかし、栽培面では連作障害が起こる一方、生命力が強く野生化されたものが在来植物と共存できるか、注視していかなければいけない。



図1. キクイモの茎中央部葉の表面 (阿部愛子)

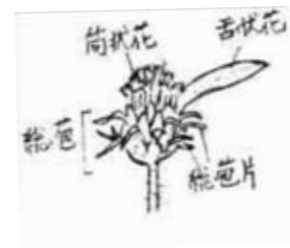


図2. キクイモの頭花 (阿部愛子)

お知らせ

「牛久の外来植物ハンドブック」をどうぞご利用ください 齊藤 孝

本会ではこの度、「牛久の外来植物リサーチ事業」の平成28年から3か年に渡る活動の成果物として「牛久の外来植物ハンドブック」を刊行いたしました。

B6サイズ、カラー114ページに及ぶ本書では、開花始期ごとに区分された156種の外来植物の名前や特徴はもちろん、市内における外来植物の調査結果の概要、植物用語解説まで詳しく網羅されています。

本書の編集に当たっては、「牛久の外来植物リサーチ事業」責任者でもある渡辺泰さんを中心に編集委員会が設けられ、調査結果に既往の研究蓄積を加えながらも、市民が手に取りやすく理解しやすい形にまとめられています。

刊行を記念し、会員の皆様には本会報誌に同封する形で1冊ずつ贈呈する事となりました。

日頃のプロジェク活動のみならず、散策の友としてもご利用いただき、外来植物への関心を深めていただければ幸いです。なお、市内小中学校及び高等学校等に対する本書の無料配布に際して、公益信託「エコーいばらき」環境保全基金様より助成金をいただきました。あらためて御礼申し上げます。



結束町みどりの保全区

「エコアップ」作戦参加者募集のお知らせ 木谷 昌史

牛久自然観察の森に隣接する牛久市結束町の「みどりの保全区」の森林維持管理作業を行う「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行っています。活動には会員・一般問わず参加出来ます。皆様のご参加お待ちしております。

活動日時

9月10日(火) 9:00～11:00
 10月 8日(火) 9:00～11:00 22日(火) 9:00～11:00
 11月12日(火) 9:00～11:00 26日(火) 9:00～11:00

集合場所 牛久自然観察の森ネイチャーセンター1階倉庫前

予約 不要/荒天時は中止

持ち物 長靴 軍手 長袖 長ズボン ※刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ
 問い合わせ先 029-874-6600 (担当木谷)

外来植物リサーチ（平成31年度から里山植物リサーチへ統合）
『牛久の外来植物ハンドブック』出版記念写真展開催報告

内野 徹

NPO法人うしく里山の会では平成28年4月から3年間、外来植物調査事業（外来植物リサーチ）を進めてきました。牛久市には900種以上の種子植物が自生し、そのうち240種ほどが江戸時代末期以降に渡来した外来植物であることを確認し、156種を『牛久の外来植物ハンドブック』に掲載しました。今回その出版を記念して、特に身近な80種を選んで写真展を開催しましたので、以下に報告します。

6月14日（金）から16日（日）の3日間中央学習センターの展示ホールで開催。期間中に小学生を含め107人の方が来場しました。

「普段身近で見ているシロツメクサ、ハルジオンなどが外来植物であったことを初めて知った」とか、「身近だけれど名前がわからなかったイヌムギ、オオキンケイギク、ナガミヒナゲシなどの名前がわかった」という意見の他、「写真がきれいだ」、「80枚の写真に圧倒された」、「自分は

植物が好きなので常陽リビングを見て来た」などの感想等もいただきました。

展示会準備中の13日にはFMうしくれしく放送（FM-UU）の取材があり、生放送で20分ほどのインタビューを受け、当グループ代表の渡辺さんと副代表の戸塚さんが対応しました。

<感想等>

写真展開催の話聞いた時には正直少し気が重いなーと思いましたが、渡辺さんの熱意と、写真パネルを作成された戸塚さんの努力と、全メンバーの手作業と工夫で無事開催に漕ぎつけました。テープが剥がれ、一部の写真が落下するというハプニングもありましたが、写真展は来観者の反応が良かったと思います。また作成した写真パネルを一回限りの展示で“お蔵入り”させてしまうのはもったいないので、今後その有効な活用が望まれています。



展示会場入り口の看板と展示会場のパノラマ写真（戸塚昌宏）（植物サンプルも展示）↑



外来植物リサーチメンバーによる展示写真の説明を聞く来観者（戸塚昌宏）（本ハンドブック）↑

アヤメ園管理業務
アヤメ園の現況

坂 弘毅

令和元年度初めてのハナショウブの開花期が無事終わりました。今年は春先の天候不順で、開花準備に遅れが生じ、週2日を3日に増やして6月半ばまで全力で対応しました。そして6月中旬に始まった開花は約1週間、人々の目を楽しませてくれました。

ハナショウブは3年毎に「株分け」という作業が回ります。毎年アヤメ園全体の1/3ずつを株分けして、株の更新をしていきます。見頃になるのは株分け後二年目と三年目です。このため、昨年株分けした株は、一輪ほどの花しかつけないため全体の1/3は寂しい感じがします。このためアヤメ園全体が満開になることは殆ど望めません。このハナショウブの性質を理解しないで、アヤメ園を訪れたとき、「あれ、今年はどうしたの」、という感想が漏れるようになります。

牛久市観光アヤメ園のハナショウブは15年前に壊滅状態であったアヤメ園を里山の会が受託して現在に至っております。当時は現在の1/2の面積の圃場でした。最初に手がけたのは、地元で伝わる口碑「牛久沼は塩分が多くハナショウブは育たない」という口碑の検証でした。茨城大学から土壌分析と水質分析の計測器をお借りして、アヤメ園全体の分析をしましたが、ハナショウブを阻害する結果は出ませんでした。この結果を踏まえ、除草作業と耕起を進めました。



開花の状態を確認するメンバー

ある程度の準備が出来た段階で、市の協力を得て、千葉県の佐原の農家から数千株を新規導入し、市内各種ボランティアの協力を頂き植え付けを行いました。

あれから15年、アヤメ園は復活していきました。その後圃場の面積は二倍に拡大されたため、新規株を青森県から導入しました。現在のアヤメ園の株は前述の佐原と青森のDNAが生き続いています。

花が終わると、次の作業は「株分け」です。梅雨が間もなく明けると厳しい暑さがやってきますが、この時期でしか、出来ない厳しい作業となります。こまめな水分補給で、熱中症には十分注意しながら、今年の株分けを完了させたいと考えております。今年の作業は12月中旬まで続きます。



親子連れの姿も



ベンチに腰をかければゆっくりと鑑賞できる

当プロジェクトが毎年行っている研修見学会を今年度第1回目として7月6日(土)に実施しました。今回の見学先は「成東・東金食虫植物群落」。当日は一時雨も降るどんよりした天気でしたが、現地では霧雨程度で気温も暑くもなく寒くもなく、無事に予定の内容、時間で実施することができました。午前8時25分、牛久市保健センター前に集合、市提供のバスで同8時30分に出発。参加者は当プロジェクトメンバー10名、市の緑化推進に関わっている人達14名、総勢24名でした。山武市歴史民俗資料館でのトイレ休憩の後、途中までバスで移動、その後、周囲を青々とした水田に囲まれた群落地まで農道を10分程歩きました。「成東・東金食虫植物群落」は日本で最初の天然記念物の一つとして大正9年に指定されています。面積は約3.2ヘクタール。現在確認されている8種(モウセンゴケ・コモウセンゴケ・イシモチソウ・ナガバナイシモチソウ、ミカキグサ・ムラサキミカキグサ・ホザキノミカキグサ・イヌタヌキモ)の食虫植物を含めて350種類以上の植物が生育しています。地元の愛土会や成東・東金食虫植物群落を守る会により、群落地の見回り、野焼き、植生調査、ガイド、大型植物の除去作業等が行なわれているとのこと。我々24名は5班に分かれて、それぞれにガイドさんから食虫植



1. ガイドさんの説明を聞く参加者。



2. 食虫植物 イシモチソウ(モウセンゴケ科) 花が終わり実が成っている。

物やその他の植物への案内、解説を約1時間受けました。その後、「山武市歴史民俗資料館」に戻り、昼食後、館内で伊藤左千夫に関する展示物を見ながら解説を聞きました。当地を午後1時30分に経ち、途中、成田空港の飛行機の離着陸が見られる「さくら山公園」でトイレ休憩。午後3時50分、牛久市役所に到着しました。

当プロジェクトの研修活動は当初のプロジェクト名である巨木リサーチの時代(平成18年度以降)からメンバーの知識・能力の向上、自然環境保全意識醸成のため年数回計画、実施されてきました。見学場所は目的に相応しい適地を、知識、経験豊かなリーダーの渡辺さんが毎年選定してくれています。以前は平成19年度に富士山(御中道・青木ヶ原樹海)、平成20年度に白神山地と遠出をしたこともあります。ここ数年は渡良瀬遊水地、ひたち海浜公園、農研機構、国立歴史民俗博物館(くらしの植物園)等を日帰り訪ねています。又、グループでの移動を容易にするため牛久市(都市計画課)のバスの提供を受けています。

プロジェクト名は巨木リサーチ、樹木リサーチ、外来植物リサーチと変わってきましたが、今後も楽しくこの活動が続けていければと願っています。



3. 食虫植物 シロバナナガバナイシモチソウ(モウセンゴケ科)



4. 木道でガイドさんの説明を聞く参加者。

出前講座継続7年目になる「牛久市社会福祉協議会奥野さくらふれあい保育園」より、今年は年6回(5,6,9,10,11,3月)の申し込みを受けて、5月から対応させていただいています。

滋賀県大津市で起きた事故の影響で、園外体験はどうなるのだろうか心配していましたが、5月、6月と対応させていただいて安心致しました。と言いますのも、年長組の回、年中組の回と月ごとの交代となり(昨年の4回のガイドから6回へ、1回の人数は減少)主任の先生が最後尾を守り、子ども達への安全指導がしっかりとされていたからです。

ツクシが花束?に出来るほど、たくさん生える場所。畑に残るノウサギが走った足跡。素晴らしい自然がたくさん残る牛久の田園の中を歩く、子ども時代の宝物のような体験活動がなくならなくて本当に良かったと心から思いました。

5月は年長組さんの日で、キビタキの声を聞きながら出発。「キュウリグサはキュウリの匂いがするー」。ユズの葉や、ドクダミの葉、サンショウの葉っぱの香りをかいだり畑の作物を見て、紫の花をつけている野菜は?(地面の下にできるものだよクイズ)。ちゃんとニンジン、大根、と地面の下に実る野菜を言うのがすごい。

竹林の道では皆と同じくらいの背丈のタケノコを発見。来月は、どのくらい伸びているかな、と予想したりしました。6月の対応日は年中組さんの回だったので、「ただいまー」と元気に帰って来た年中さんに、「どうだった?」と聞いてくる年長組さん。嬉しそうに伝えている交流が微笑ましかったです。

これからもたくさんの生き物と触れ合えるように、子ども達の郷土である牛久の自然の楽しさや大切さに気づけるように、子ども達へのサポートをしっかりと行っていきたいと思います。



田んぼの生き物をみんなで観察

ネイチャーセンター内の木育ひろばは昨年から引き続き順調にお客様に利用されていて、昨年度の同月と比較しますと利用者数が3割ほど伸びています。

春には観察の森のヤマザクラで製作されたティディベア36体が設置され、新たな遊びができて子どもたちにも好評です。また、同じ材で製作された「くまの顔のペンダント作り」をゴールデンウィークにネイチャーセンター前で開催しました。

直径5センチほどの大きさのくまの顔に耳、目、鼻のパーツをボンドで接着し、オイルを塗り伸ばし完成させます。ひもを通してペンダントにして持ち帰りますが、顔の裏には磁石がついているので、違った使い方もできます。子どもだけでなく、大人の方にも体験していただきました。ヤマザクラの木がオイルを塗ることによってぱっと深い色に変化するところを楽しんでいただけたようです。

梅雨に入った頃、湿度が70%を超えるとひろばに敷いている木の床が膨張し盛り上がりを見せることがあります。これを見ると木材の特性である周囲の水分を放出したり吸湿したりする調湿効果を実感し、直すために手間がかかるという思いと同時に木材の面白さも感じます。これからの繁忙期もスタッフ一同来園者の方に楽しんでいただけるよう努めて参ります。



くまの人形で遊ぶ子供達の様子
(牛久自然観察の森ネイチャーセンター木育広場うっし内)